

公民館報

坂城

令和5年
2023.3.23
No.400

発行／坂城町公民館 発行人／塚田 常昭 編集／広報部 印刷所／滝沢印刷（同）
〒389-0602 長野県埴科郡坂城町大字中之条2468 文化センター内
TEL.0268-82-2069 FAX.0268-82-8722



400号記念 巻頭特集

節目の館報とその時代

◆主な内容◆

公民館報坂城400号記念特集 2～3P
令和5年度分館役員 4P
第27回更埴地区短詩型文学祭 5～6P

第56回坂城町書初展 7P
春のスポーツ大会について 7P
お知らせ、館説「開畝」 8P

祝 公民館報 400号

節目の館報とその時代

創刊から68年。坂城町の節目を時代の流れと共に語り続けます。

第100号

昭和40年11月15日

松代群発地震が発生した昭和40年。坂城町の合併10周年にあたり、同年10月1日から3日にかけて記念行事が開催されました。「坂城音頭」もこの年にできました。前年には、6年ぶりに復活した町民運動会も盛大に開催されました。町内全域に保育園が完成し、産業道路一号線が竣工されるなど、町の基盤整備が進められました。



創刊号

昭和30年7月20日

昭和30年4月1日、坂城町・中之条村・南条村の一町二村が合併し、新坂城町が発足しました。合併に伴い、新たに坂城町公民館報が発刊されました。町唯一の広報誌として、町政から議会に及ぶ幅広い記事が掲載され、月1回発行されました。合併により大きくなった坂城町の未来図や町づくりへの思いが熱く語られていました。



昭和
47年

昭和
40年

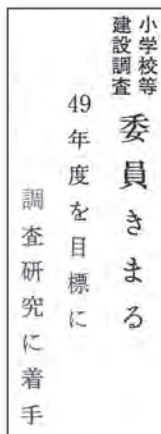
昭和
34年

昭和
30年

第150号

昭和47年11月20日

坂城都市計画区域が指定され、優れた田園工業都市の建設に動きだした昭和47年。小学校等建設調査委員会条例が制定され、調査研究が始まりました。三小学校の全面改築や給食センターの建設に向けて動き始めました。文化センターを中心会場として坂城町文化祭も始まりました。ハード面・ソフト面ともに充実してきました。



村上村と合併きまる

来年4月1日から

東筑前町と合併し、九月五日の町議会で坂城町と合併することと議決しました。これにより坂城町でも、十六日市議会を以て合併を議決するとともに、九月五日に限りあるよう町民を招集し合併することになりました。



第50号

昭和34年9月10日

坂城町・中之条村・南条村の合併から5年。昭和35年4月1日、村上村が坂城町に合併しました。統合中学校（現坂城中学校）を逆木地籍に建設することが決まりました。

火災で焼失した坂城小学校の再建が始まり、小学校のプールの建設も始まりました。小中学校の施設整備が進められました。

公民館報

400号に寄せて

教育長 清水 守

公民館報『坂城』の発行が400回目の節目を迎えました。

この3年間、新型コロナウイルス感染症の影響により、さまざまな行事や活動が中止や縮小となりました。そのため、公民館報『坂城』の中に、行事に関する記事が減りましたが、「ふるさと探訪」のような学びの記事や「500字リレートーク」のような住民の皆さんの随筆など、別の内容を充実するよう工夫してきました。コロナ禍によって、新たな視点で町民の皆さんに読んでいただける内容を考えるきっかけにもなりました。今後もこのような努力を大事にしていきたいところです。

さて、公民館の役割として、住民同士が「つどい」「まなぶ」「むすぶ」ことを促し、人づくり・地域づくりに貢献することが求められています。しかし、コロナ禍の中で、町の公民館活動や地区の分館活動がままならなかった時間が経過し、さまざまな活動に対し参加への意欲が薄れてきているのではないかと心配があります。私たちは、公民館が設置された経緯に立ち返り、公民館や分館の活動の意義を改めて考え合うことが必要かと思えます。その上で、活動のあり方や工夫について皆様からご提言をいただければありがたいです。

第300号

平成9年11月26日

長野新幹線が開通した平成9年。前年の平成8年には、上信越自動車道の坂城ICも開設され、高速交通網の時代になりました。翌年平成10年には、長野冬季オリンピック・パラリンピックが開催されました。



第200号

昭和53年1月27日

町民祭「坂城どんどん」が始まった昭和53年。前年の昭和52年11月には、公民館報より「広報さかき」が独立しました。翌年昭和54年9月には、「議会報さかき」が独立しました。「広報さかき」の独立により、公民館報の内容が大きく変更され、公民館行事・社会教育・文化・スポーツ等の内容が中心になりました。

館報200号記念 座談会

平成
19年

平成
9年

昭和
62年

昭和
53年

第350号

平成19年10月12日

NHK大河ドラマ「風林火山」が放映された平成19年。武田信玄を二度討ち破った村上義清公にかかわるイベントが数多く開催されました。前年の平成18年には、「信濃村上フォーラム」が開催され、村上氏への関心が高まりました。



第250号

昭和62年9月8日

競い合いから集いの場への変更を進めた春のスポーツ大会が始まった昭和62年。町民運動会は、27分館を4チームに分けて、



得点を競いました。また、前年度坂城大橋が完成したことを祝して、坂城大橋開通記念イベント第4回駅伝大会が、小学生の分館対抗の形で開催されました。

令和5年度 坂城町公民館分館役員のお知らせ

令和5年度の分館役員のみなさんをご紹介します。一年間よろしくお願いします。

分館役員のみなさん

(敬称略)

分 館	分館長	副分館長	文化部長	体育部長	広報部長
鼠 宿	赤池 隆伸	藤巻 敬士	中村啓一郎	岡崎 拓真	赤池 篤
新 地	山崎 秀巳	南澤 正雄	高井 久	坪内 卓哉	山崎 充孝
金 井	石塚 伸吾	竹内 茂和	菱田 昌平	塚田 祐司	横江 輝男
入 横 尾	児玉 輝男	神林 直樹	宮下 尚樹	宮下 寛典	緑川 学
町 横 尾	風間 隆文	三角 健次	牧内 昇	渡邊 洋平	榮花 大
泉	西沢 正巳	田中 愛	小宮山 傳	山崎 洋子	田中 愛
中 之 条	塚田 恭久	宮後 秀紀 荒井 謙昇	笠井 利幸	石井 正芳	石井 卓哉
四 ツ 屋	谷井 伸安	池田 公雄	池田 昇	宮原 宏二	矢嵩 仁
戌 久 保	中嶋 秀樹	前澤 良行	中嶋 秀樹	白田 淳也	山崎 啓五
御 所 沢	滝沢 幸映	柳沢 謙樹	宮澤 桂子	柳沢 一男	滝澤 由江
田 町	井上 智之	西村 右子	小宮山勝人	南澤 祐	近藤 敏朗
横 町	林 裕規	蒲原 敏一 竹内 英樹	杓掛美和子	近藤 祐也	塚田 克好
込 山	中村 淳	春日 康成	金澤 貴俊	小林 厚	竹鼻 正和
立 町	春日 邦博	宮尾 政規 古谷遼太郎	竹内 睦夫	飯島 克芳	畑山哲次郎
旭 ケ 丘	塚田 博	宮尾久美子	小宮山静子	中村 明	塚田 博
南 日 名	春日 忠雄	砂田 和男 拓植 幸勇	小宮山育朗	長谷川 誠	小宮山育朗
北 日 名	鈴木 茂幸	池田 昌次 柳沢 直美	西澤 滋	中村 公彦	桑原 充寿
日 名 沢	大橋 千明	佐藤 修一	仙田 貴弘	中村 朋之	関 加代子
大 宮	下倉今佐男	池田 千尋	小野 天	牧村 浩明	塩野入由美人
新 町	清水 浩樹	市川 恭平	富山 泰	中澤 弘幸	浅井 登
坂 端	中沢 修司	高橋 貴	高橋 浩二	高橋 祐次	竹中 譲
苺 屋 原	千野 朗	千野 博	坂口 幸男	前島 浩治	水出 初雄
網 掛	宮入 健誠	宮原 市夫 大井 意輝	可知 亨	大井 明彦	朝倉 剛
上 五 明	粕尾 雅由	畑 敏夫 竹内 慶伸	山田 博美	塚田 雅俊	近藤 裕一
上 平	山辺 繁雄	武田 裕樹	村上 千鶴	柳澤 俊男	依田 俊明
小 網	梅原 淳一	西澤 茂盛	赤羽 忠雄	安藤 修治	赤池 平吉
月 見	刈屋 栄仁	中村 拓己	赤川 浩一	宮尾 裕之	柳澤 誠

第二十七回更埴地区短詩型文学祭入賞作品

更埴公民館運営協議会（坂城町と千曲市で構成）主催の第二十七回更埴地区短詩型文学祭表彰式が12月17日（土）に坂城町中心市街地コミュニティセンターで開催されました。
佳作以上に選ばれた坂城町の作品を紹介します。敬称は略させていた
だきます。

一般の部

「短歌の部」

佳作

「終わったらトマトの苗を植えるわね」
逃れ来し娘にウクライナの母

横田 徳子（網 掛）

「俳句の部」

◆更埴地区短詩型文学祭大賞

鳩の声電波不良の平家谷

永井 浩（大 宮）

◆更埴公民館運営協議会長賞

その時に鐘つく寺や原爆忌

小西 正枝（町横尾）

◆佳作

桃出荷箱に貼られた「黍」の文字

中島 照代（中之条）

「川柳の部」

◆更埴地区短詩型文学祭大賞

低辺を生きて身に付く思いやり

小宮山洋子（中之条）

「現代詩の部」

◆更埴公民館運営協議会長賞

すずめ

松沢 瑞枝（込 山）

昨年一年間なぜか御無沙汰だった
ふと気がつくと 寢室の外の軒下で
か細い小さな声がチチチチと
そんなに鳴き続けて大丈夫と
思うほど

お腹が空いたよ

お父ちゃんお母ちゃん

その声は数日後には

にぎやかなチユチユチユとなり

休む間もない親鳥たちの姿は見えないが

天敵にどうか見つかりませんように

チユンチユンチユンと元気な鳴き声

ブルブルと羽ばたきをくりかえし

ガサゴソと動きまわり あるとき

突然シンとしたもの私の部屋になる

ウクライナでも

小鳥たちの子育ては続いているだろうか



◆佳作

カマキリ

石関みち子（込 山）

雲ひとつない気持ちのいい秋日和
洗濯物を広げていると
すぐ目の前にカマキリ一匹
鋭い鎌状の捕獲肢

これで虫などを捕らえるのだろう

三角の小さな頭 触角は糸状に

長く二本

腹部は大きくふくらみ

四本の肢はすてきに長い

カマキリというより 螭螂という貫禄

春の頃か白い壁に取りついていた

ちっちゃな姿はみどりの妖精のよう

だったか

螭螂の斧とは強敵に反抗する

はかない抵抗の例えというが

しばし勇姿に見とれていたが

いつの間にか何処へ消えてしまった

何か話してみたかったのだ

あの眼が今の世をどう感じているのかを

やんちゃばうず

小宮山敬子（網 掛）

むこうの山々が

だんだんと眠りについて

空の神様が

魔法の杖をひと振りすると

灰色雲の親分が

雪の子分達を送り込む

やんちゃばうずが

あとからあとから舞い降りてきて

鬼ごっこを始める
「みーつけた」

「つーかまえた」

さっきまでおしやべりしていた

自動販売機は

目をぱちぱちさせて

黙り込む

家の前に止まった青い自動車も

ぱーっと突っ立った電柱も

あつという間につかまつて

そうして

ずんずん

ずんずん

世界はやんちゃばうず達の楽園に

変わっていく



小学生の部

「俳句の部」

◆佳作

海開きつめたいなみが
おしよせる

坂城小学校五年 河内乃ノ葉

キャンプの日

火の神様があとずれる

坂城小学校五年 高橋 力也

「川柳の部」

◆奨励賞

能登の宿友の笑顔で光る星

南条小学校六年 尾台 結菜

空みあげ夜うめつくす星の海

村上小学校五年 藤井 美宇

◆佳作

ささえあうこころゆたかな
にちようへ

坂城小学校四年 萩原 有斗

二年ぶり祖母の料理で
ほっぺもえがお

南条小学校六年 吾妻 啓志

協力して助け合っているいいクラス

坂城小学校四年 丸山 空真



「現代詩の部」

◆奨励賞

けんか

南条小学校四年 山崎 白琥

やすみになるとけんかがはじまる
ぼくと兄のけんかがはじまる
すんごいけんかがはじまる
ぼくがなんにもしてないのに
兄がいらいついてたら人をまきこむ
やすみだけんかをやめてほしい

いねのダンス

南条小学校四年 大塚 柚

家の近くに田んぼがある
いねがそだってきて
かぜにゆられて
おどつてる
きれいなダンス
うつくしい
早くお米になってほしいな

中高生の部

「短歌の部」

◆佳作

とうもろこしひとつぶひとつぶ
ていねいに食べる妹
すごくかわいい

坂城中学校二年 篠原 琉杏

「俳句の部」

◆奨励賞

夏の空ベテルギウスが見えた夜

坂城中学校二年 瀧澤 ラル

「川柳の部」

◆佳作

ありがとう

努力で褪せたユニフォーム

坂城中学校三年 小林 名乃

「現代詩の部」

◆佳作

人生は物語

坂城中学校二年 小熊 千奈

私達の人生は
いくつかのストーリーが
つながってできている
「起」で物語が始まり
「承」でいろいろな人と出会い
「転」で人生を変える決断をして
そして
「結」で物語は終わりをむかえる
最後まで物語を書ける人もいて
途中で急に書き終わる人もいる
でもね
どこで物語が終わるのか
誰にも分らない
だから面白いんだけどね
不器用でもいい
下手くそでもいいんだよ
最後に最も必要になるモノは
「自分らしさ」
なんだから

500字リレートーク

自然豊かな自在山

宮原 澄子

我が家から見える自在山は三角の形です。主人の母は「坂城富士だよ」と言っていたので「そんな名前もあるんだ」と長年私は思っていました。ある時、母から「坂城富士は私が付けたんだよ!」という言葉に二人で笑ってしまいました。

四季を通して、春は山桜で淡いピンク色、夏は太陽の光を浴びて生き生きとした緑色、秋は茶色の落ち着いた紅葉、冬は白く雪化粧と色々な装いでです。

自在山の自然の美しさは、人生の辛さを感じてもポジティブ思考に整えてくれるので心身ともに健康に過ごせています。感謝したいと思います。

母はいつも「一度は自在山に登りたい」と言っていました。自宅での介護が難しくなり、今は施設で過ごしています。

母と手をつないで一緒に自在山に登り、頂上から我が家を見ている姿を思い描く毎日です。

次は、高野美智子さんです。



我が家から見える自在山「坂城富士!」

第56回 坂城町書初展

第56回坂城町書初展を1月4日～6日に文化センターで開催しました。会場の都合により、書初展のみの開催となりましたが、園児から一般までの53作品が出品され、多くの皆さんに観覧していただきました。入賞された方々を紹介します。

敬称略

★坂城町長賞

南条小2年 清水愛結奈



★坂城町教育長賞

坂城小6年 吉池 幸咲



★坂城町書道協会会長賞

村上小2年 宮原 咲妃



★中学生の部金賞

坂城中2年 小出 久遠



★中学生の部金賞

坂城中3年 西澤 早絵



◆金賞

一 園児 白井 心花
高 校 児 宮下 結衣
重倉 嶺
小出 真生

◆銀賞

坂城小4年 岩浅 采実
坂城小6年 柳沢 美帆
南条小2年 天田 梓沙
南条小4年 大塚 柚
南条小5年 柳沢 美麗
南条小6年 片山 太一
村上小3年 中澤 心結
村上小5年 星本 真希
坂城中1年 中島 凜音
坂城中2年 岩戸 真一
坂城中2年 塚田 真心
坂城中2年 柳澤 謙二

◆銅賞

坂城小2年 吉池 葉那
坂城小5年 鈴木 彩葉
坂城小5年 富山 心菜
坂城小6年 宮沢 紗世
南条小2年 天田 汐里
南条小3年 中島美紀子
村上小1年 小出 侑和
村上小2年 松木 杏奈
村上小5年 高橋里衣奈
村上小5年 松下 心玲
坂城中1年 池田 早良
坂城中1年 小宮山 瑛太
坂城中1年 蕨沢 侑海
坂城中2年 真柴 澄伶
坂城中2年 仙田 美月
坂城中2年 玉井 里奈
坂城中2年 林 美咲
坂城中3年 栗原 莉来
坂城中3年 宮沢 華奈



春のスポーツ大会 参加者募集!!

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、3年間中止されていた春のスポーツ大会を種目を増やし、参加対象を拡大して、開催いたします。奮ってご参加ください。

1 日時

令和5年5月21日(日) 8:00～ (午前中を予定)

2 種目(分館単位で編成)

※他の分館との合同チームは、当該分館長の承認を得てください。

ソフトボール…坂城町在住の中学生以上の男性

ただし、出場選手の年齢の合計が360歳以上

ビーチボール…一般の部：坂城町在住の中学生以上の女性

小学生の部：坂城町在住の小学生(男女問わず)

マレットゴルフ…坂城町在住者、4人1組のチーム戦

(男女問わず)

(4人のメンバーは別々の組でプレーします。)

3 会場(参加チーム数によって変更あり)

ソフトボール…文化センター(2面)、上五明運動公園(1面)

村上小学校(1面)、坂城小学校(1面)

ビーチボール…文化センター体育館、坂城中学校体育館

マレットゴルフ…ねずみ橋マレットゴルフ場

4 参加方法

参加希望者、参加希望チームは、分館役員にご相談ください。

分館役員は、令和5年5月8日(月)までに、坂城町公民館事務局(文化センター内)に、参加申込書を提出してください。

5 事故対応

(1)主催者は、大会中の傷害は応急手当のみ行います。

(2)大会当日及び主催者で定めた練習日は、主催者で傷害保険に加入します。

(主催者が定めた練習日以外に、分館単位で練習する場合は、事前に坂城町公民館までご相談ください。)

6 問い合わせ先

坂城町公民館(文化センター内)

電話 82-2069 FAX 82-8722

E-mail: bunka@town.sakaki.nagano.jp

公民館文化講座

令和5年度文化講座の受講生を募集します。全講座初心者を対象としていますので、ぜひお申し込みください。なお、複数の講座の受講もできます。

俳句	短歌	茶道 (表千家)	茶道 (裏千家)	書道	古文書	絵画
木彫	陶芸	コーラス	詩を楽しむ	郷土料理	季節の	盆栽

受付開始 4月4日(火) 8:30～
※年度途中からの受講も受け付けます。

申込場所 坂城町公民館(文化センター2階)
※申込書は、町HPと公民館にあります。
受講料を添えてお申し込みください。

受講料 1人1講座につき受講料3,000円

開講式 4月14日(金) 19:00～
文化センター1階大会議室

※講座の進め方などの打ち合わせを行いますので、必ず出席してください。

リトミック教室

保護者の方と一緒に歌やリズム遊びを通じて、お子さんの豊かな感性や情緒を育む楽しい教室です。

受付開始 4月4日(火) 8:30～

期 日 5月10日～2月21日 毎週水曜日(年間40回)
10:00～11:30

会 場 文化センター大会議室ほか

指導者 中沢敏江さん(リトミック研究センター特別講師)

対 象 1歳～未就園児とその保護者(1歳未満は要相談)

受講料 8,000円 **定 員** 20組

キッズスポーツ教室

軽運動や楽しいゲームなどで基礎的な身体づくり、コミュニケーションづくりをする講座です。

受付開始 4月4日(火) 8:30～

期 日 5月10日～3月6日 毎週水曜日(年間30回)
17:00～18:00(時間が変更となりました)

会 場 坂城町体育館

指導者 長野体育指導センター指導員

対 象 4・5歳児

受講料 15,000円 **定 員** 30名

講座及び各教室の詳細は「まなびの玉手箱」をご覧ください。 問い合わせ先 電話82-2069(文化センター)

二十歳のつどい
実行委員募集中！

今年の8月15日(火)に開催を予定している「坂城町二十歳のつどい」の実行委員を募集しています。興味のある方は公民館事務局までご連絡ください。対象者は平成14年4月2日から平成15年4月1日生まれの方です。

説
開
館
歌

4月下旬から5月にかけて、藤は薄紫色や白色の美しい花を咲かせます。4月初旬の桜のピンク色に対して、藤の薄紫色は、春から夏への季節の移り変わりを感じさせてくれます。

今から35年ほど前に、私は富士見町に住んでいました。教え子の保護者の方から、「藤がきれいに咲いたので、ぜひ見に来てください。」とお誘いを受けました。訪問してみると、花房の長さが1mもあり、薄紫色の藤の花が、藤棚一面から滝が流れ落ちるように咲き誇っていました。藤の花言葉が「優しさ」「歓迎」ですから、藤の花を見に来た私を歓迎してくれたのでしょう。その時の藤の美しさは、今でも鮮明に覚えています。

さて、日本で一番多い苗字は何でしょうか。一番多い苗字は、「佐藤」さんで、およそ185万人いるそうです。日本人に多い苗字には、不思議と「藤」の漢字が多くついています。5位「伊藤」さん106万人。10位「加藤」さん88万人、19位「斎藤」さん54万人。34位「藤田」さん、

35位「後藤」さん、36位「近藤」さん、38位「遠藤」さん...と続いています。これは、平安時代に栄華を極めた藤原氏の影響があります。藤原氏の一族は全国にひろがり、加賀の国の藤原氏は「加藤」、伊勢の国の藤原氏は「伊藤」と地名となった国の名を取って家名を変えていきました。明治になって苗字が義務づけられるようになると、名門・藤原氏にあやかうと、ゆかりの無い人々も「藤」の字が入った苗字を名乗るようになったようです。ちなみに、藤の花見に招待してくださった保護者の苗字は、「武藤」さんでした。苗字のように、見事な藤でした。

藤という漢字は、「上」の「ばる植物」という意味を持っています。その漢字のように、長さは20mを越すほど大きくなります。また、特別天然記念物にも指定されている牛島の藤(埼玉県春日部市)のように、樹齢が1200年になるものもあります。1200年前という藤原氏が栄えた平安時代の頃になりますので、その生命力に驚かされます。創刊から400号となった公民館報も、藤のように末長く継続していききたいと思っています。

(T・T)